

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	シンガポール	
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	小林理子	学年	2年

シンガポールから学ぶ多文化共生への取り組み

問い…なぜシンガポールは多文化共生国家として成功しているか？

この問いに対して私は答えを①お互いを認め合い、自分とは違う考えの人達の事も積極的に受け入れている、②コミュニティーを大切にしている公園やフードコートで見られるコミュニティーが多文化共生において重要な役割を果たしているのではないかと想定した。

探究活動の報告

留学前…①シンガポールシティーギャラリーやシンガポール国立博物館について調べたり、各民族エリアについて日本で情報収集したりする。②静岡県の多文化共生度を調べて抱えている問題や今後の推測を立てる。

留学中…①それぞれの文化エリアでの情報収集、(チャイナタウン、アラブストリート、リトルインド)文化エリアには地域や民族を代表する寺院がありそれらの寺院が各民族の心の拠り所となっていると考える。②シンガポール人に多文化共生国家である自国に誇りを持っているか、インタビューして、アンケートを取る。

留学後…①学校でプレゼンを行い、実際に私達が取るべき行動について発表する。②SNSで自分が学んできた事を発信する。③地元焼津市で行われる異文化交流イベントに実行委員として参加して地域に貢献する。



アラブストリート・サルタンモスクでの礼拝



街中でシンガポールの人々へのインタビュー

現地活動後、問に対する答え

人々は本当にコミュニティーを大切にしていた。街では様々なバックグラウンドの人の活気あふれる交流が見られた。また、他人に対して優しい気持ちを持って接する文化という印象も受けた。公共の場でのアナウンスや掲示は英語、中国語、ヒンドゥー語、タガログ語の4ヶ国語でなされていた一方でそれぞれの民族地域ではその地域の言語が優先されていて、ニーズに合わせた細かな配慮が見て取れた。全てで全国民がまとまるように整備されていた。また、8月11日のシンガポール建国記念日に向けて国民全体で国家誕生を祝う雰囲気でも盛り上がっていて団結して準備に取り組んでいた。一体感をとても感じた。インタビュー：自分の国に誇りを持っているか？に対しては100%の人がYesだったのがとても印象的だった。

自分の活動について

計画した事を早く進めていったのでハプニングに遭いながらも概ね達成することができたことは評価したいと思う。最初自分のわからない点を伝える事に難しさを感じたが人と関わる重要性を実感し、そこからは積極的に行動できた。初めてインタビューできた時は大きな達成感があった。自分も語学学校で様々な国の人と交流し、世界に友達ができかけがえのない経験となった。反省点は博物館にアポを取り、インタビュー活動をする予定ができずに終了してしまった事。アポなしでも直接行って話をする必要があったと思う。街中インタビューは人数を重視してしまい、内容をもう少し深くできればその後の分析に役立ったと思いつながりたい。

アンバサダー活動

ルームメイトに日本の創作お菓子を作り意味を伝え、学校の生徒には折り紙を教えた。作っている間に静岡出身だと伝えると海外の人が富士山について聞いてくれて、静岡県と富士山を結び付けている事がわかり嬉しかった。また人に英語で何かを教える経験から、どう伝えたら相手によりわかりやすいかを考える良い勉強となった。

エヴァンジェリスト活動

小川小学校、小川中学校、静岡高校とそれぞれプレゼンした。対象に合わせて内容やスライドを変え、多文化共生についてと留学について思う事を伝えた。

留学について

初めての留学なのでできなかったと感じる事も多いが、目標を立てて達成していくプロセスを学ぶ事ができた。多くの人と関わり積極性も手に入れた。この留学を経て得た経験を焼津市や静岡県に役立てたい。また、多くの外国の友達もできてこれは自分の大きな宝物となった。

